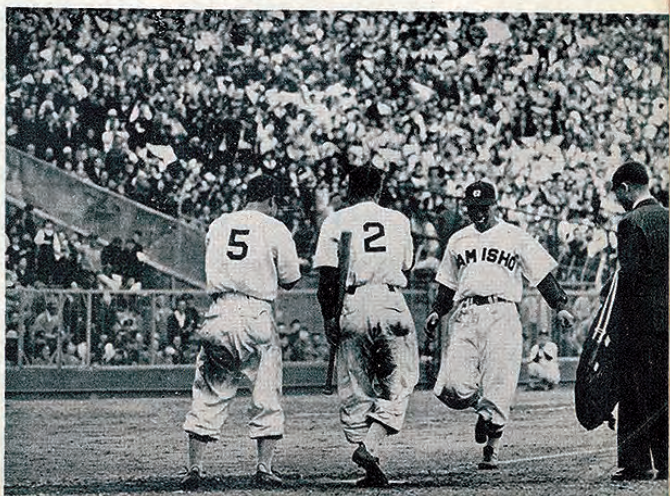


昭和三十年選抜大会では昭和十二年以来十八年振りの宿願達成で、地元で大優勝旗を持ち帰った喜びは深い。本校としても稀有の大型選手揃い。攻守よく



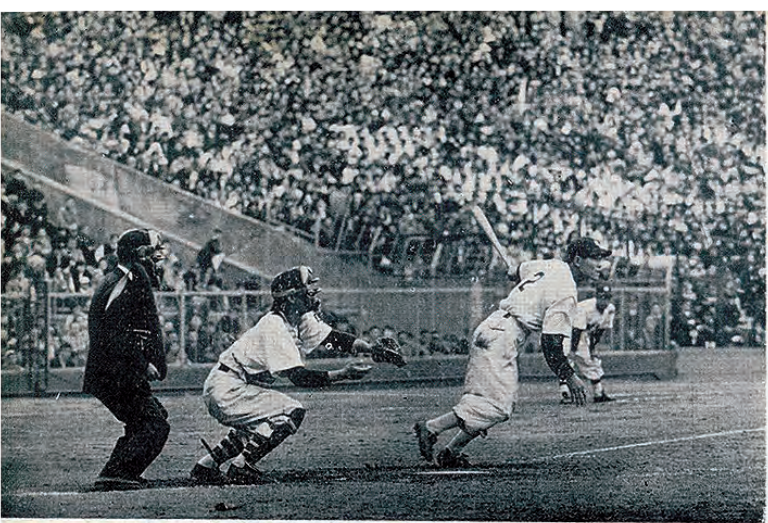
↑ 桐生高優勝戦 (一)  
四回、西田左前に最初の安打を放つ (昭三〇・四・八)

← 同上 (二)  
四回、無死満塁、山本の中犠飛で西田生還



← 優勝決定の刹那  
十一回、一死満塁のとき竹内、投手左へスクイズ敢行、坂崎、頭からホームに打ち入りつて優勝決定の一こま (球審大槻氏)

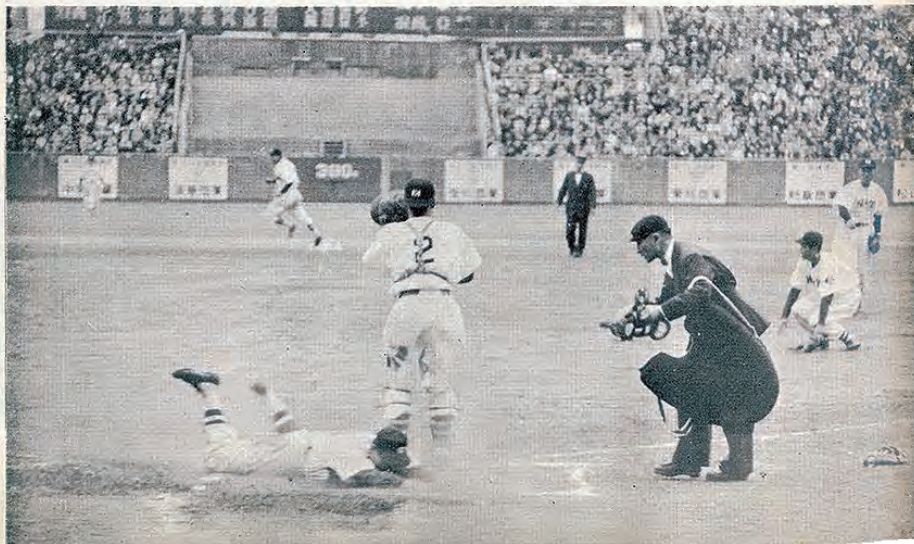
→ 同上 (三)  
六回、本塁打で坂崎悠々生還、迎えるは山本、5勝浦



← 桐生高優勝戦 (四)  
山本快打の一瞬 (捕手田辺)

バランスのとれた好チームで、第二の黄金時代を謳われた。優勝までの六試合を通じて、最も印象にのこる殊勲選手は坂崎の強打で、彼の一撃で勝運を開いた試合が実に多い。優勝戦では桐生今泉投手と坂崎との一騎打が勝敗を左右した、と詮じつめれば断じ得るほどに彼の長打力の威力は凄かった。

本大会の優秀選手として  
広島投手、山本捕手、勝浦三塁手、坂崎外野手の四名が入賞。坂崎選手は別に本塁打賞2、打撃賞、生還打者賞、山本捕手は本塁打賞1をそれぞれ獲得した。





↑ 輝やく全国優勝成る!

(後列) 谷本主将、広島、草部、厚朴、坂崎、池田、古市、勝浦 (前列) 万野、山本、杉山、竹内、佐川、西田

↓ スタンドの歓呼を浴びつつ場内一周 (昭三〇・四・八)



▼ 梶立尼崎高(準決勝)——両軍投手健闘、無得点に進んで又もや八回、大会のヒーロー坂崎の二塁左の強襲安打に貴重の一得を得て決勝に入る。  
 ▼ 桐生高(優勝戦)——両軍秘策を傾け機動力をフルに發揮してのシーソーゲーム、白熱戦裡に延長戦にもつれこんで十一回、桐生一死二、二塁のとき、奇襲の三盗は水泡に帰したに反し、本校一死満塁を迎え、坂崎、竹内とのスクイズ成功、決勝点をあげた。

▽ 立教高(二回戦)——谷本・広島両投手でノーヒットノーランに封じ、六回坂崎の右越痛打で走者一掃、勝機をつかむ。  
 ▼ 小倉高(二回戦)——小倉は一回スクイズで一点先取。そのまま押し切られるかと思ったが八回、大会随一の好投手畑を好打し、坂崎のタイムリー安打は二点を加えて計三。小倉また一点を追加したが振り切って制勝。力のこもった好ゲーム。  
 ▼ 平安高(準々決勝)——苦手の相手ながら好調の波に乗じた打線爆発、17-1で大勝。

↓ 本田会長より優勝旗は谷本主将の手へ



栄光の一瞬はカメラ陣に  
 大旗授与の一こまを真正面と背後から……





よろこびにわきたちかえり空たかく  
 なにわのまちに万歳のこえ  
 梶浦康子



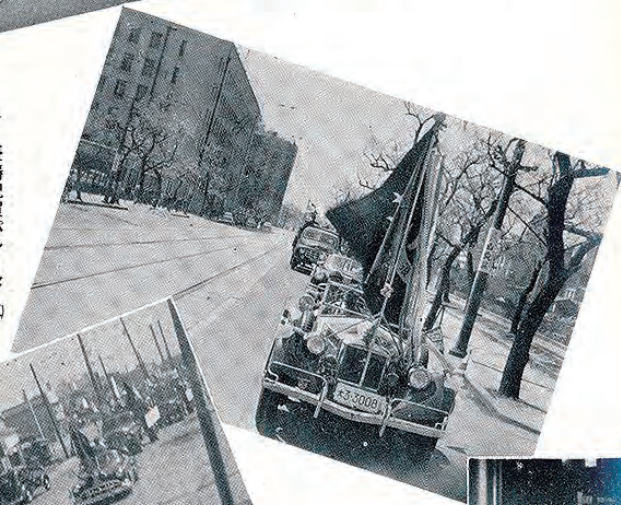
← 第二七回選抜高校  
 大会優勝レブリカ



↑ 優勝祝賀パレード (←)  
 歓喜はトラックにのって

↓ (右) 東京六大学寄贈優勝カップ  
 (左) 三崎、山口両氏追悼高校試合  
 甲子園記念トロフィー  
 (昭三〇・五・八)

優勝祝賀パレード (□)  
 ↓ 大阪市庁に感謝訪問

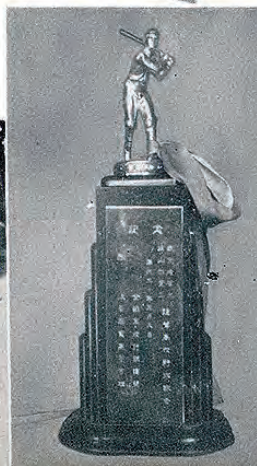


→ 優勝祝賀パレード (□)  
 住友本社前を市庁へ

↑ あらためて歓喜の爆発  
 合宿に引揚げて一四・八



← 阪急前より天六へ  
 (近藤登君撮影)





→ 第八回の大坂優勝（藤井寺）  
 （後列）谷本主将、佐川、古市、草部、  
 杉山（中列）竹内、万野、池田、厚朴、  
 西田（前列）坂崎、広島、山本、勝浦  
 （昭三〇・八・二）



第三十七回  
 全国高校選手権大会参加章  
 （宮島久七作）

→ 贈られたマスコットを囲んで（合宿所で）



→ 衆望を負うて  
 谷本主将、その右坂崎、左広島、  
 山本、古市、厚朴



→ 一回戦 新宮高（一）  
 九回、古市右中間三塁打してそ  
 の差一点に迫る  
 （昭三〇・八・二）

春の全国優勝校は、夏には地方代表  
 にもなりがたいというジレンマがある  
 が、予選では優勝戦に興国商と熱戦十  
 六合、危うくこの流説に従うところだ  
 だった。甲子園ではあるいは春夏全国  
 大会の制網なるかとまで期待もされた  
 が、一回戦新宮高前岡投手に打線沈  
 黙、最終回、俄然掉尾の奮起に逆転濃  
 厚の緊迫場面を展開したが、無暴の三  
 盗に万事休した。



→ アルプス・スタンドに小旗で  
 N文字を描く応援席  
 同上（二）  
 九回、三塁打の古市、竹内と  
 のスクイズはスタート遅く本  
 塁寸前に憤死（球審鈴木氏）



↑ 日航機は一路ハワイへ

← 東京同窓の見送り  
 (8号標ポール下に  
 中島監督、杉本顧問  
 の姿も見える)  
 羽田飛行場で  
 (昭三〇・八)

ハワイ遠征選抜高校チ  
 ムに選ばれた本校三選手



→ 喜びの三選手(神宮球場で)

← 一行の来場歓迎フラ・ダンス  
 (坂崎君撮影)



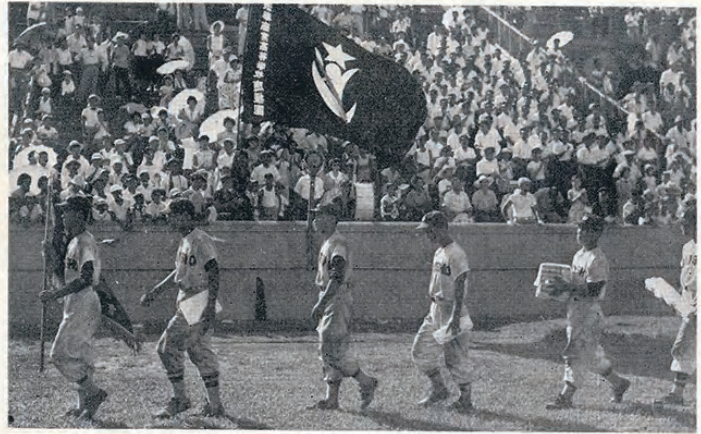
↑ ハワイの風に吹かれて  
 左より田辺(桐生)、坂崎、前岡(新宮)、  
 山本、畑(小倉)

第三十七回全国高校選手権大会の閉会式でハワイ遠征高校チーム十七名の優秀選手が発表され、本校から坂崎、山本、勝浦の三選手が名誉の選抜をうけた。八月十九日上京、神宮で総合練習の上、同二十五日羽田から一路ハワイへ飛び立った。

← 優勝旗は和島副将の手に(藤井寺)  
 第三十八回全国高校選手権優勝大会  
 大阪予選 (昭三一・八・二)



↑ 頸のレイもめづらしく  
 前列山本、坂崎、田辺(桐生)  
 山本の後列、前岡(新宮)



→ 本校応援団席前を無量の感慨で……



→ 優勝フェイイスを並べて  
 (前列) 厚朴主将、福田、辻、藤本、  
 古(中列) 和島、河田、万野、加藤、  
 藤(後列) 高島、樋口、藤山、肘井、遠



第三十八回  
全国高校選手権大会参加章  
(小柴剛孝作)

黄金時代といつて然るべき春の高校大会優勝権を掌握した昭和三十年度チームのあとをうけただけに、新チームは選手の大半を送つてもいるため難航を予想されたが、厚朴主将以下ナインの目覚ましい健斗で又もや連続大阪優勝を遂げた。甲子園では二回戦(不戦一勝)秋田高に一方的ゲームで快勝したが、準々決勝で平安高に屈した。ゲーム後半から荒天模様となり、凡飛球が強風に流されてこれがタイムリー・エラーとなるなど、遺憾は多かった。



← 遠来の秋田高迎撃(←) (甲子園)  
七回、一死二盗の神吉、捕手の悪送球に一挙三進(秋田渡辺三塁手)  
(昭三一・八・一五)

↓ 厚朴主将、優勝の喜びをマイクに  
優勝直後、本校ベンチ前で……(藤井寺球場)



← 三回戦・平安戦(←)  
五回、平安一死市川、藤川スクイズ不成功、本塁寸前にアウト。(投手藤本、捕手厚朴、球審山本氏)  
(昭三一・八・二七)



↓ 秋田高戦(二回戦不戦勝)  
四回一死、万野、厚朴の中犠飛に生還

← 平安戦(←)  
八回、藤本一死、河田、本校一死、打ノイズ内野安、平安バツリ同点、止懸安を見つめて

